

3人の子どもが不登校～お父さん体験談～

山中 正雄（仮名）

我が家の家族構成は、2男2女の4人の子ども達と夫婦の6人です。長女は23歳で末っ子次男は13歳です。実は長女が小学4年生の時に不登校になりましたが、詳細は記憶にありません。記憶にあるのは次女（現在通信制大学2年生）と長男（現在通信制高校1年生）です。私はサラリーマンで早朝から出勤し夜遅く帰宅する毎日です。それに加え、離れて暮らす両親の世話をしている休日も家を空けることが多いため、子ども達と接する機会が必然的に少なく、育児は殆ど家内任せでした。

当時小学3年生の次女が同級生から言葉によるいじめを受けていたそうですが、よくあることと気にしませんでした。次女が高学年になるにつれ、私と目を合わすことや会話もなくなり、私は避けられていました。しかし、家内にだけは心を開いて相談していたように思います。家内は一人で問題を抱え込むようになっていきましたが、二人の会話を直接聞く機会がなく、現状を把握していなかった私は、次女に対して関心を持つことも行動を起こすこともありませんでした。家内からは「女の子は必ず父親のもとへ戻ってくる」とアドバイスされ、その時が来るのを待とうと思いました。

高校に進学し1年生の夏休みに体調不良を訴えるようになり、病院で統合失調症の診断を受けました。私達夫婦はどうしていいかわからず、無力さと悲しさ、将来への不安で途方に暮れる毎日が続きました。そのうち、学校に馴染めず友達からも距離をとられるようになり、不登校が始まりました。高校3年生の夏休みに「全日制から通信制に転校したい」と家内を通して話がありました。昭和生まれの私は、世間体のこともあり「絶対に辞めるな。ここで逃げたら次のところでも逃げる癖がつく」と強く却下したのを覚えています。最終決断は次女と家内に任せたところ通信制に転校することになり、その後徐々に次女の体調不良や家内のストレスも軽減される結果となりました。今では笑顔で会話することも増え、一緒にショッピングに出かけたりして通信制の大学生活を送っています。しかし、当時次女が現状を私に知られたくなかったこと、子どもの事で私の仕事に影響が出ないようにと心配りしてくれたこともあり、家内は一人で問題を抱え込み、体調を崩してしまいました。家内には大変な苦勞をさせてしまったと反省しています。

次に、長男が中学2年生の5月頃から突然不登校が始まりました。ある朝、頭痛と腹痛を訴えだし、病院受診を勧めても拒みました。家内は毎朝引きずりだそうと必死でしたが、徒勞に終わりました。学校へ欠席の連絡をした事が分かれば早々に体調は改善され、何もなかった様子で日々を過ごしていました。そして学校の欠席日数が日に日に増えていきましたが、学校を休んでいるという罪悪感は見受けられませんでした。私は次女の時と同様に本人を問い詰めましたが、いじめもなく本人も理由は分からないという返事でした。長男が不登校になったのは、私自身に原因があるのではないかと思い悩みました。私が子どもに対して理想の将来像を押しついたり、オンラインゲームが可能な環境を与えてしまった事や強く叱った事などが原因かと思いましたが、大元の原因ではなかったようでした。でもオンラインゲームに費やす時間はどんどん増えていき、昼夜逆転の日々が続くのを見てゲーム環境を与えてしまったことを大変後悔しました。

このような生活が中学卒業まで続き、今も昼夜逆転の生活は継続されています。通勤途中、部活動の道具を持って通学している学生達を見かけるたびに、普通の生活の有り難さを痛感していました。そのような毎日を過ごしていた時、家内が鈴木先生のカウンセリング（47ページ参照）を受け、私にもアドバイスをしてくれました。それは「口出しせず、子どもを信じて見守る」という事でした。子ども中心の生活スタイルを夫婦で心がけていたので、私は知らず知らずのうちに過干渉に

なっていたのかもしれませんが。アドバイスされたことによって、私自身心に余裕が生まれ今に至っていますが、長男の心境にも変化がありました。外出したりオシャレを楽しんだり、表情も明るくなってきたと思うこの頃です。遅い思春期がやってきたようです。また長男の親友の存在も大きく、いつも悩みや相談事、何気ない会話ができて大変助けられていたように思います。

今、振り返って思うことは次女と長男の場合では考え方に違いがあったということです。昭和的な考え方ですが、男は家庭を持つと大黒柱として家族を養っていかなくてはならないので、息子には高学歴・高収入を期待してしまいました。しかし、情報化社会の令和時代では色々なジャンルの職業が存在し、その中で自分が好きな職業を選択してもらえたらと思えるようになりました。

今回の体験談を綴るにあたり夫婦で会話をする中で、当時詳しく話していなかった事や様子が分からないまま事が進んでいたり、実は後から知った事や考えの食い違い等が多くあったことに気づきました。家庭内での問題が発生した場合、可能な限り夫婦でじっくりと話し合う場を持ち、情報を共有しておくことが大切だと思いました。子ども達の不登校を通して私達夫婦も成長させられました。今では「何でもこい」と強い心が芽生えたように思います。私自身、子ども達の将来について不安は拭いきれませんが、成長過程において不登校や引きこもりの期間が追加されただけで、それが本人達にとっての大人への階段なのだろうと途中から考えを改めました。そして本人達が楽しい未来を築けるよう、これからも口出しせず距離をおいて見守って行こうと思っています。私達夫婦のかけがえのない大切な家族の一員なのだから……。



奥様から

この体験談を書くにあたって、久々に夫婦で話し合いを重ねました。その中で、お互いの当時の心境や本音を初めて話すことができました。いくら話し合ってもこの人は通じない、無駄だと諦めていましたが、3人の子ども達の不登校を通して親の生き方や人生観が変わったのだらうと思います。それはとても大変なことでしたが、以前より家族の関係性は良くなったと思っています。こんな日がくるとは思いませんでした。あの頃の私に教えてあげたいくらいです。